

トウモロコシの品種について

飛騨地域では、デントコーンの後作で赤カブを作付しているため、早期に収穫する必要があることから、115日程度の早生品種が多く使われている。また、平野部では、デントコーンをフルシーズン作付けした後、イタリアンを播種する栽培体系が多く、収量性の高い中晩生品種が多く使われている。

次年度作に向けて、品種を選定する際は、県の奨励品種（表1）の中から各地域に適した品種を選定する。

表1 岐阜県飼料作物奨励品種の特性（トウモロコシ）

（「岐阜県飼料作物奨励品種栽培の手引」岐阜県畜産課（平成24年3月）より）

品種名	早晩生 (相対 熟度)	品種の特性	播種 時期	播種量 kg/10a
36B08 (ハ ^o イ ^o ア ^o 106日)	早生 (106)	草丈はやや低いが、耐倒伏性とすず紋病抵抗性に優れる。緑度保持力に優れ、乾物の消化率が高い。10a当たり7,000本仕立て。	4～6月	2～3
LG3520 (スノーデント110)	早生 (110)	倒伏に強く、茎葉豊富な乾物多収品種。10a当たり7,000～7,500本仕立て。	4～5月	2～2.8
セシリア (ハ ^o イ ^o ア ^o 115日)	早生 (115)	アップライトで、雌穂乾物収量が高く、緑度保持が良い。10a当たり7,000本仕立て。	4～5月 下旬	2.5
34B39 (ハ ^o イ ^o ア ^o 115日)	早生 (115)	草丈高く、雌穂のボリュームがある乾物多収品種で、エネルギー収量が期待できる。10a当たり6,500本仕立て。	4～5月	2～3
SH4681 (スノーデント115)	早生 (115)	長稈だが着雌穂高は低い。子実割合の高いエネルギータイプの多収品種。10a当たり6,500～7,000本仕立て。	4～5月	2～2.2
KD660 (コーンデントKD660)	中生 (116)	初期生育が早く、低温伸長性に優れる。倒伏に強く、高乾物収量品種。10a当たり6,000～6,500本仕立て。	4～5月	2前後
DKC61-24 (スノーデント118)	中生 (118)	茎葉ボリュームに優れ、雌穂も大きな、サイレージ用極多収品種。10a当たり6,500本仕立て。	4～5月	2～2.2
ZX7605 (Z-corn120)	早中 (120)	アップライトで初期生育良好。耐病性、耐倒伏性に優れる。10a当たり6,700本仕立て。	4～5月	2～3
31P41 (ハ ^o イ ^o ア ^o 120日)	中生 (120)	緑度保持が良く、子実割合の高い、エネルギータイプの多収品種。10a当たり6,800～7,000本仕立て。	4～5月	2～3
ZX8486 (Z-corn128)	晩生 (128)	環境適応性が高く、不良な気象要因下でも安定多収が期待できる。ごま葉枯病に注意が必要。10a当たり6,800本仕立て。	4～6月	2～3
3470 (ハ ^o イ ^o ア ^o 127日)	晩生 (127)	遅まき用品種。耐病性、耐倒伏性に優れ、緑度保持が良い。10a当たり7,000本仕立て。	4～6月	2～2.5

養 蜂

3月になると気温が上昇し蜂の活動も活発となり、女王蜂の産卵も急増する。しかし、春の陽気は不順がちで、時に急な寒波が来る時があるため、3月中は出来る限り巣枠を追加しないで、蜂が常に産卵圏を守れるだけの枚数を保つようにする。

また、蜂が増えていく時期に起こりやすい病気として、下痢症がある。症状としては、巣箱の前で臭気のある淡黄色の軟便をするので、すぐに分かる。発病の原因としては、越冬中に発酵した蜂蜜を食べたり、巣箱の保温材が湿気を帯びて雑菌が繁殖した場合に発生しやすい。対応としては、湿気を帯びた保温材を新しい乾燥したものと交換し、新鮮な糖液を給餌する。